

タイトル	2025 年度 学校推薦型選抜 共同教育学部（保健体育専攻） 小論文・面接・
解答例	解答例 現代社会においては、生涯にわたって生活の中に運動やスポーツを取り入れ、誰もがいつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことが目指されています。生涯にわたって運動やスポーツを継続して実施することは、身体を動かすことによる爽快感を感じたり、スポーツを通して仲間とのコミュニケーションを取ることに よる楽しさや喜びを感じたり、体力向上、精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の健康維持に繋がったりします。この生涯スポーツの実施者となるためには、子どもの頃から、運動やスポーツが好き、と感じることが必要です。よって、運動が嫌い、と感じる子どもたちを減らすことが求められています。 そして、体育・保健体育教員は、まず、体育の授業において、子どもたちが運動の楽しさを実感できる授業づくりを行うことが必要です。その手立てとしては、例えば、単調なトレーニング的な運動や厳しい競争を伴う運動ではなく、ゲームの要素を取り入れた、子どもたちが進んで取り組みたくなるような活動を設定します。また、子ども一人ひとりの実態に合わせた活動を考え、運動の苦手な子ども、得意な子ども、どのレベルの子どもも積極的に挑戦できる多様な活動を設定することも考えられます。さらに、目標を簡単なものから難しいものまで、いくつかつくり、それらの目標を達成することで、できた、と実感できる成功体験を積ませることも有効だと考えます。 (596 字)
評価のポイント	(小論文) 子どもの「運動嫌い」への課題意識や解決の手立てに関する記述内容を評価した。評価に当たっては、次のような点を特に重視した。 まずは、子どもたちの「運動嫌い」に対する問題点や、「運動嫌い」の子どもを減らすことの必要性や意義を記述しており、その内容が妥当であり、適切であるかどうか。 次いで、体育・保健体育の教員として、特に、体育の授業においてどのような手立てが考えられるかについて、具体的に記述されており、その内容が適切であるかどうか。

	(面接) 教育および保健体育に関する基本的知識や課題に対する思考力、判断力、表現力等を評価した。評価にあたっては、次のような点を特に重視した。 ・ 問題に対する基礎的知識と理解度 ・ 論理性 ・ 表現力 ・ 将来性 (大学の学びに対して意欲的であるか)
--	--